

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.12 その3

八丈島探検記～本編その2

贅田隼人 (だにえる)

この記事はなんぞや? ということでざっと概要を。2019年8月18日夜から八丈島に船で向かい、原付で八丈島を堪能して22日夜に東京に戻ってくるという原付旅の記録です。今回は八丈島2日目(8月20日)です。

※ 八丈島探検記～本編その1については、本会のホームページWEB版ナマステからご覧になれます!



熱帯夜に苦しんでいたのに、テントが明るくなると自然と目が覚めるもので、6時前に起きてしまいました。急ぐ用事もないので、のんびりと支度を進めます。本当は朝ごはんを食べに行きたかったのですが、お目当ての店が定休日だったので今日はキャンプ場で済ませました。今日はまず、1日目に行きそびれたポットホールを目指すことにします。

キャンプ場を出て、三原山方面に進みます。昨日通らなかつた道を開拓してみようと寄り道をしていると、何やら白くて大きな建物がいくつか見えました。近づいてみると、油槽所という表示がありました。船に使うものなのか、ガソリンスタンドなどに持っていく分なのかなどは分かりませんが、八丈島で使う燃料を貯めておく施設のようです。八丈島はバイクや車が多いですし、船や飛行機と燃料を必要とするものが多いうえに、台風などでその供給が不安定になることもあるでしょうから、こういった建物が必要なんだろうなあと一人で感心してしまいました。(ガソリン価格の安い埼玉の生まれなので、島のガソリン価格にはいまだに不満を持っていますが)



そんな寄り道をしながら登龍峠を進みます。天气が良かったので登龍園地で休憩していると、昨日乗ってきた橋丸が入港してくる様子が見えました。向きを変えて、港に寄せる様子が面白く、遠くからですがずっと見てしまいました。



再び、リトルカブを走らせます。八丈島一周道路からポットホールのある、こん沢林道へ入ると一車線分ほどの狭い道になりました。落ち葉や苔が多いところもあるけど、それほど道路の状況が悪くなくて良かったなあと思いつつ走らせていると、倒木が道の半分くらいをふさいでいました。あまりに大きくて動かしようがないし、原付でよかったなあと思いながらよけて通ることにしました。車で通りたかった人がいたらごめんなさい、でも一人ではびくともしませんでした。

予期せぬトラブルもありつつ、目的地のポットホールに到着しました。観光スポットとして整備されているようで、車を停めておくスペースや説明の看板もあって有難いです。ポットホールは罅穴(おうけつ)とも言い、水の流れて浸食されてできたくぼみに、小石などが入り、水と小石でさらに浸食が進み、円形の穴になったものことだそうです。色々な場所で見られますが、八丈島のこん沢林道罅穴群は数百メートルにわたってポットホールが存在している点で珍しいものだそうです。まずは、散策路に沿ってポットホールを見ていきます。角の取れた小石がいくつも穴に入っている様子が確認できますが、動いている石はありませんでした。雨などで水量が増えたときに回転するものなのではないでしょうか? 散策路自体はあまり長くないので15分ほどで終わってしまいました。時間的に余裕があるので散策路から外れてさらに上流の方へ行ってみることにしました。沢を歩くような感じになるので、足を滑らせないように慎重に進みます。流れ

が二手に分かれているところや、1メートルほどの落差があるとこもあり、進んでいて楽しいです。30分くらい進んだと思います。3メートルほどの崖が目の前に現れました。無理矢理にでも登れそうですが、降りれなくなってしまうと困るので引き上げることにしました。きちんと準備すれば、三原山の山頂を目指すこともできたのかもと思うと、もう一度挑戦してみたいなという気がします。2回ほど足を滑らせながら、停めてあったリトルカブの所まで帰ってきました。ポットホール、ちょっと地味ですけど八丈島に行った際には行ってほしいです。



こん沢林道を進んで、島の反対側を目指します。スリッパしないように、落ち葉やマンホールなどは気を付けていたのですが、下り道でいきなり舗装されていた道が砂利道に変わりました。咄嗟に減速し、足も出してバランスを取ります。10メートルほど使ってなんとか転ぶことなく止まることができました。山の中でケガをしたり、原付が走行不能になったりするようなことがあるとお手上げなので本当にひやひやしました。一度転んで走行不能にしたことがある経験がここでの危機管理につながりました。砂利道を慎重に下り再びコンクリの道に出ても、知っている道に出るまではゆっくりと進みました。

お昼ご飯にしようとして人におすすめを尋ねつつ原付を走らせ、郷土料理が食べられる「いそざきえん」さんに行きました。メインは麦粥で、これも美味しかったです。興味深かったのは露地栽培のバナナと「きんぼし」という料理でした。トマトと一緒にバナナが出てきて、「うちで採れたバナナです。」って言われた時は思わず聞き返してしまいました。ハイビスカスがいたるところに咲いているけど、バナナまで育つんですね、八丈島。きんぼしというのは、サツマイモを干して小豆などと一緒に甘く煮たものだそうで、味は栗きんとんに似ていました。食べたときはこういう食べ方も美味しいなという程度の感想だったのですが、記事を書くにあたって調べると米の代わりにする保存食として重宝された歴史があり、今では食べる人も作る人も少なくなってしまう文化の継承の面でも興味深いものだということが分かり、作り方をもっとしっかり聞いてくればよかったなと思いました。昔は一年間食べられるようにサツマイモを干して作っていたということなので、八丈島の食を支える重要なものだったことが伺えます。



お昼を済ませて、元気も出てきたので原付を走らせ、八丈富士のふれあい牧場まで行きました。1日目で八丈富士のあたりは星を見るのにいいという情報があったので、夜に星空観察をする場所を探す意味もあります。登ってきたときはまだ晴れていましたが、牧場について牛や景色を撮っていると霧が出てきました。牧場内のお店に入り、プリンを食べながら（とても美味しかったのでプリンが好きな人は八丈島に来たら是非食べてください）売店の人に話を聞くと、八丈富士の周りは午後になると雲がかかるとのこと。売店の人もここ一か月のうちで片手で数えるほどしか午後は晴れないという話なので八丈富士で星を見るのは難しいようです。季節が違えば、雲の動きも変わるでしょうから冬などにも来てみたいですね。売店の人は八丈富士ではなく、乙千代が浜（おちぢがはま）や南原千畳敷という島の西側が星を見るのに良いと教えてくれたので、そちらに行ってみることにします。

折角八丈富士まで来たことだし、と八丈富士をぐるりと廻る鉢巻道路を一回りしたら、体が冷えました。視界も悪くていいことないし、下ってから天気悪いと嫌だなあと考えながら山を下り始めると日差しが出てきました。のんびり走り、体を温めつつ海沿いまで進みます。山を下りてすぐにアロエ畑が広がっていたのがすごく印象に残っています。アロエも露地で越冬できるのか、八丈島。

南原千畳敷は、足元の黒い溶岩層と青い海が視界に広がる、見晴らしの良い場所です。夜の様子を聞こうと思い、喫茶店らしき建物に寄りました。僕の記憶では、薄暗い店内に店主が行って撮ってきたという東南アジアの写真や小物・敷物があるさびれた海の家のような怪しいお店で、さほど冷たくないアイスコーヒーを飲み、星がよく見える場所であるという言質を取りました。ただ、お店の名前も確認しておこうと検索をかけるとオシャレな料理ときちんとしていてよかったという高評価の口コミが……。僕が出会ったのは幻覚か何かだったのでしょうか、こればかりはもう一度行ってみないと分からないですね……。

時間調整をしつつ、1日目と同じく八丈ストアでお弁当を買って、南原千畳敷へと戻ります。夕日が沈んでいくのを眺めつつ、夕食を済ませ、暗くなるのをさらに待ちます。灯台の明かりを避けて、あの辺で寝転んで見れば星を楽しめるだろうなとか、色々と思案しつつ待つまでは良かったのです……。実際に暗くなると、気がほと

んどなく、ただただ波音が響く海岸。しかも、溶岩でできている足元は黒く、ただでさえ暗くて確認しにくい足元を一層不安なものにします。見知らぬ土地でこんなに暗い場所にいると人はこうも寂しくなるのかと驚きました。星はすごく綺麗でした。真冬の小菅で見ると違い、寒さに震えることもありません。でも、すごく落ち着かない気持ちが強かったのを覚えています。同じように星を見る場所を探しに来る人がいるのか、時折海岸沿いの道路を車が通るのがまた怖いのです。暗かったはずの視界の端に急に明かりが通り過ぎていくたびに、体を起こ

して周囲を確認せずにはいられませんでした。そんなこんなで1時間程度滞在してキャンプ場へと撤退してしまいました……。次に行くことがあればラジオでも持って行くのがいいのでしょうか、一人で星を見に行く人とかいたら教えてほしいです。

そんなこんなで、最後は情けない感じの終わり方になってしまいましたが、2日目は以上となります。3日目は温泉目的のツーリングと、今回の電源事情なんかをお伝えできればと思います。では、また！ (つづく)
